

学校支援地域本部事業

自治体名

岩手県大船渡市

学校数

小学校 11校 中学校 4校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

東日本大震災による津波で、市街地の大部分が被災し、多くの児童が学区内外の仮設住宅等から通っているが、震災後3年を経過する中で生活基盤は回復しつつある。仮設住宅数は、1,324戸である。

<取組名> 大船渡市図書環境整備支援事業、大船渡市スクールガード配置事業

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	(1)	6,209人	2,227回	11小学校、4中学校、通学路、スクールバス

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
			○	○	()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

<取組の内容を具体的に記載>

【図書環境整備支援事業】

- (1)取組内容 市内各小中学校に図書環境整備員を派遣し、図書環境整備を行うなど図書室環境を整備することにより、読書を通しての震災後の子供たちへのケアや読書推進の一助とする。
- (2)実施方法 年間150時間程度、各小中学校において、1~2名の図書環境支援員を配置し、蔵書の整備、図書登録、図書室環境の整備などを行う。

【スクールガード配置事業】

- (1)取組内容 市内各小中学校に対し、安全監視員(スクールガード)を配置し、登下校時の子どもたちの安全を確保する。
- (2)実施方法
 - ア 登下校時に通学路を自動車で巡回指導を行い、子どもたちの安全を監視する。
 - イ 登下校時に子どもたちに同行し、安全を監視する。
 - ウ スクールバス通学については、バスに添乗して安全を監視する。



【図書環境支援員 環境整備】



【スクールガード 随行指導】



【越喜来小学校造成工事】



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

震災復興に対して予算が割かれ、社会教育分野の予算が大幅に減少する中、子どもと学校を拠点とした地域づくりの必要性、子どもたちの放課後の安心・安全の確保、中高生の学習場所の確保などについては、大きな課題として残っていた。

◇住民等からの要望・必要な取組

震災以降、学校現場では、多くの支援による寄贈図書が寄せられていたが、これを受付し登録、整理することは大きな負担となっていた。また、震災により、歩道や街路灯の損壊や工事関係車両の増加など、通学環境の悪化、通学路の変更による登下校時の安全が確保されないのではないかと懸念が保護者から寄せられていた。



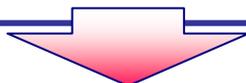
体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・コーディネーター：市の職員
- ・ボランティア：市教委(コーディネーター)が学校を通じて応募をした。
- ・市教育委員会：実施主体
- ・学校：活動内容の依頼、協力・連携、児童・生徒への周知

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・改善が生かされ、事業がより充実して展開できるようにPDCAサイクルの導入の促進を図った。
- ・それぞれの学校のニーズの把握と具体的な取り組みを提案した。
- ・学校を通じてのボランティア募集には、限界があり、その対策として公民館に募集依頼、ボランティア経験者からの紹介による新たなボランティアの発掘等を行い、ボランティアの人数を確保した。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・継続して図書支援員を配置している学校からは、「素敵な図書室になった」「同じ方なので安心してお任せできる」「昨年度までの活動に加え読み聞かせの手伝いなどをお願いしとても助かっている」等の評価をいただき、子ども達が利用しやすい図書室となるよう環境整備を実施できた。
- ・ボランティアの方々からは、学校と子どもたちの元気な様子が見えて嬉しい、これからも携わっていききたい等という感想が寄せられている。スクールガード、図書支援員を経験したボランティアからの口コミにより、少しずつではあるが事業への理解が広まっている。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

- ・平成24年度からこれまでの3年間で、スクールガードは、のべ147人 4,565日 26,918時間、図書支援員は、のべ52人 993日 5,261時間を越える活動を行ってきた。特にスクールガードは一人当たりの平均活動時間が、H25年度の169時間から平成26年度は204時間と増加している。

◇課題や今後の展望

- ・事業開始当時は、震災による通学路の変更やガードレール流失等への安全対策が主目的であったが、復興事業が本格化してきている現在は、大型車等の工事関係車両の通行が浸水区域に限らず市内全域で増加しており、児童生徒の通学時における安全監視はより必要性を増している。
- ・読書活動の推進による児童生徒の心の復興への支援は今後も継続していかなければならない。図書支援員の活動はその一役を担うと考えるが、学校によっては、事業そのものに負担を感じ、理解と協力が得られない場合もある事から、一層事業への理解促進を図る必要がある。